

未来の創り手を育てる
探究的な学び

武蔵野市民科 教員向け手引

平成 31 (2019) 年 3 月
武蔵野市教育委員会

はじめに

現代社会は、大きな変革時期を迎えています。急速な情報化や技術革新は私たちの生活を変容させ、グローバル化により多様な価値観が生み出されています。さらに、環境、貧困、平和、持続可能な開発など、我が国を含め世界には様々な課題があります。

このような時代に、未来社会の創り手となる子どもたちに必要な資質・能力とは何か。新学習指導要領の前文を基に端的に示せば、

- ・一人一人が自分のよさや可能性を認識すること
- ・多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えること

と言えます。そのために、学校には「社会に開かれた教育課程」の実施や「カリキュラム・マネジメント」の充実が求められています。地域・社会と一体となって、子どもたちに自立した大人として協働や社会参画する力を育成することが、これまで以上に重要視されています。

本市には青少年問題協議会やコミュニティセンターなど、地域の豊かな教育力があります。また、長期計画策定時に市民ワーキングを実施するなど、市政への市民参画も活発です。これらの特徴を生かし、市立小・中学校では「市民性を高める教育」の充実を図っています。

本市において、これからの時代に求められる資質・能力を育成するには、この「市民性を高める教育」をカリキュラム・マネジメントの中核に据え、更なる推進を図ることが望ましいと考えます。

そこで、これまでの取組を充実・発展させ、「武蔵野市民科」として、各学校の教育課程に市民性の育成を明確に位置付けます。本手引は、各学校のこれまでの実践や、武蔵野市民科カリキュラム作成委員会の議論を基に、「武蔵野市民科」のあり方をまとめたものです。

どの子どもにも幸福な人生を歩み、未来社会の創り手に育ってもらいたいと願うのは、全ての大人の願いではないでしょうか。その願いを実現する取組が「武蔵野市民科」であり、自校の特色を生かした実践を追究していくことを、各学校に期待しています。

～目 次～

はじめに

武蔵野市民科の全体像（育成する資質・能力、学習過程、全体構想、指導計画）・・・ 3

I 武蔵野市民科の概要

1 目標と目指す資質・能力

（1）目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

（2）目指す資質・能力・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

①「自立」に関する資質・能力

②「協働」に関する資質・能力

③「社会参画」に関する資質・能力

2 武蔵野市民科の内容

（1）教育課程上の位置付け・・・・・・・・・・・・ 19

① 実施学年

② 教育課程上の位置付け

③ 年間指導計画上の取扱い

④ 小学校低・中学年で取組

（2）学習の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・ 21

3 指導計画作成・実施にあたっての留意事項

（1）指導計画作成の実際・・・・・・・・・・・・ 23

（2）学習テーマ例・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（3）評価方法・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

（4）実施にあたっての配慮事項・・・・・・・・ 27

Ⅱ 武蔵野市民科の実践事例等

1 実践事例 ※（ ）内は学習テーマ

(1) 境南小学校

6年 未来に向けて（キャリア発達）・・・・・・・・・・ 29

6年 境南とことん研究所（伝統・文化理解）・・・・・・・・ 31

(2) 第五中学校

1年 大田市・白馬村から武蔵野を振り返る（長期宿泊体験活動）・・ 33

3年 武蔵野市改造計画（まちづくりへの参画）・・・・・・・・ 35

2 実践モデル案 ※（ ）内は学習テーマ

(1) 小5 防災について考えよう（安全・防災）・・・・・・・・ 37

(2) 小5 環境問題を考えよう（環境）・・・・・・・・・・ 38

(3) 小5 協力して成功させよう！セカンドスクール（長期宿泊体験活動）・・ 39

(4) 小6 働くってどういうことだろう（キャリア発達）・・・・ 40

(5) 小6 共に生きる（福祉・ボランティア）・・・・・・・・ 41

(6) 小6 発信しよう！武蔵野市の魅力（武蔵野の魅力発信）・・ 42

(7) 小6 わたしたちの生活と政治（主権者）・・・・・・・・ 43

(8) 中1 武蔵野ルネサンス（まちづくりへの参画）・・・・・・・・ 44

(9) 中1 教室美化からルールのある方を考えよう（主権者）・・ 45

(10) 中2 職場体験から考える将来の自分（キャリア発達）・・ 46

(11) 中2 安全な交通環境づくり（安全・防災）・・・・・・・・ 47

(12) 中3 日本の伝統文化を発信しよう（伝統・文化理解）・・ 48

(13) 中3 SDGsから考える未来の社会（国際理解）・・・・ 49

Ⅲ 武蔵野市民科の参考資料（武蔵野市民科カリキュラム作成委員会での検討資料等）

1 武蔵野市民科の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

2 学習テーマの内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

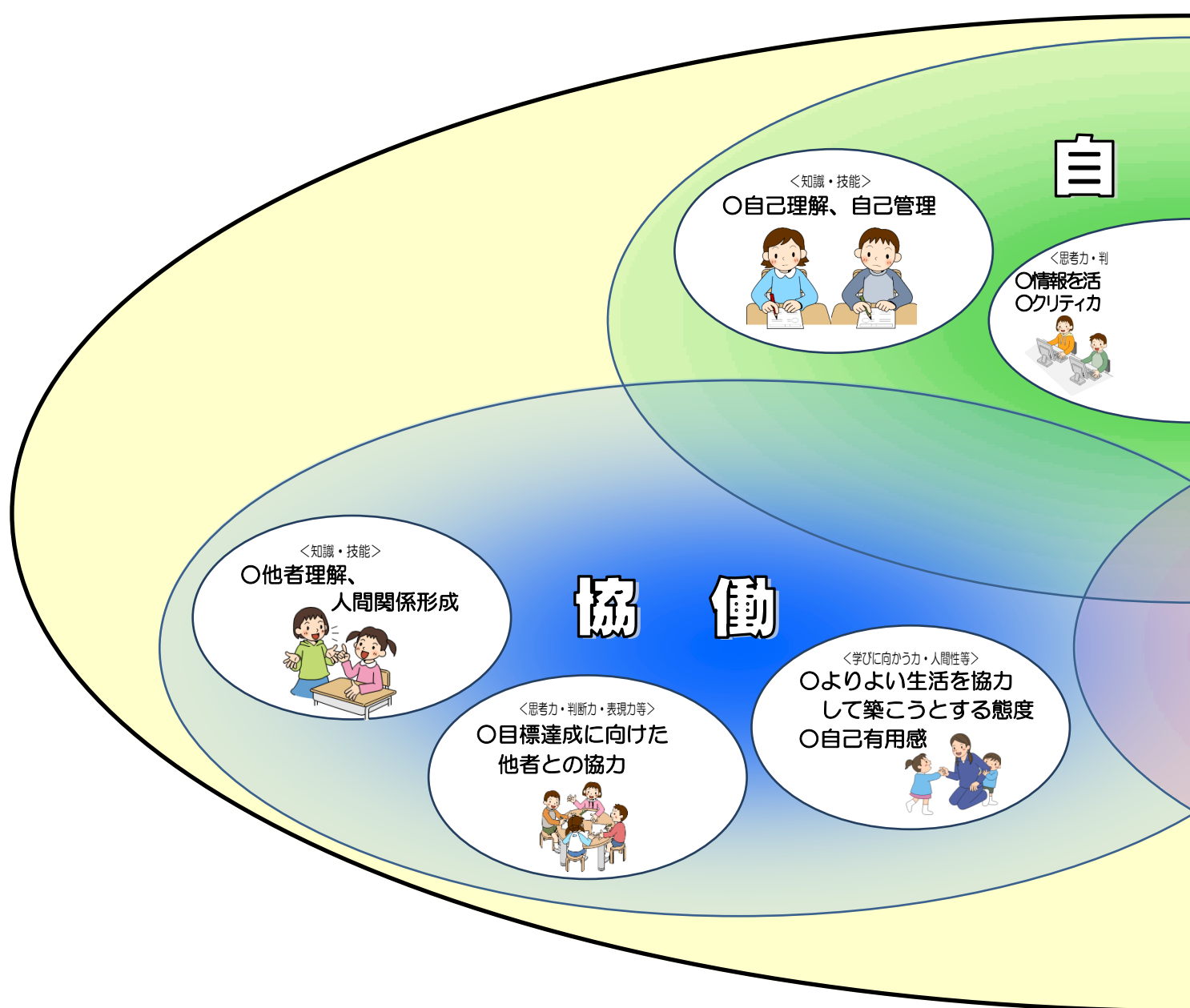
3 関連資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

4 武蔵野市民科検討の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

武蔵野市民科は

「社会の一員として、より 参画していく資質・能力

育成を目指す

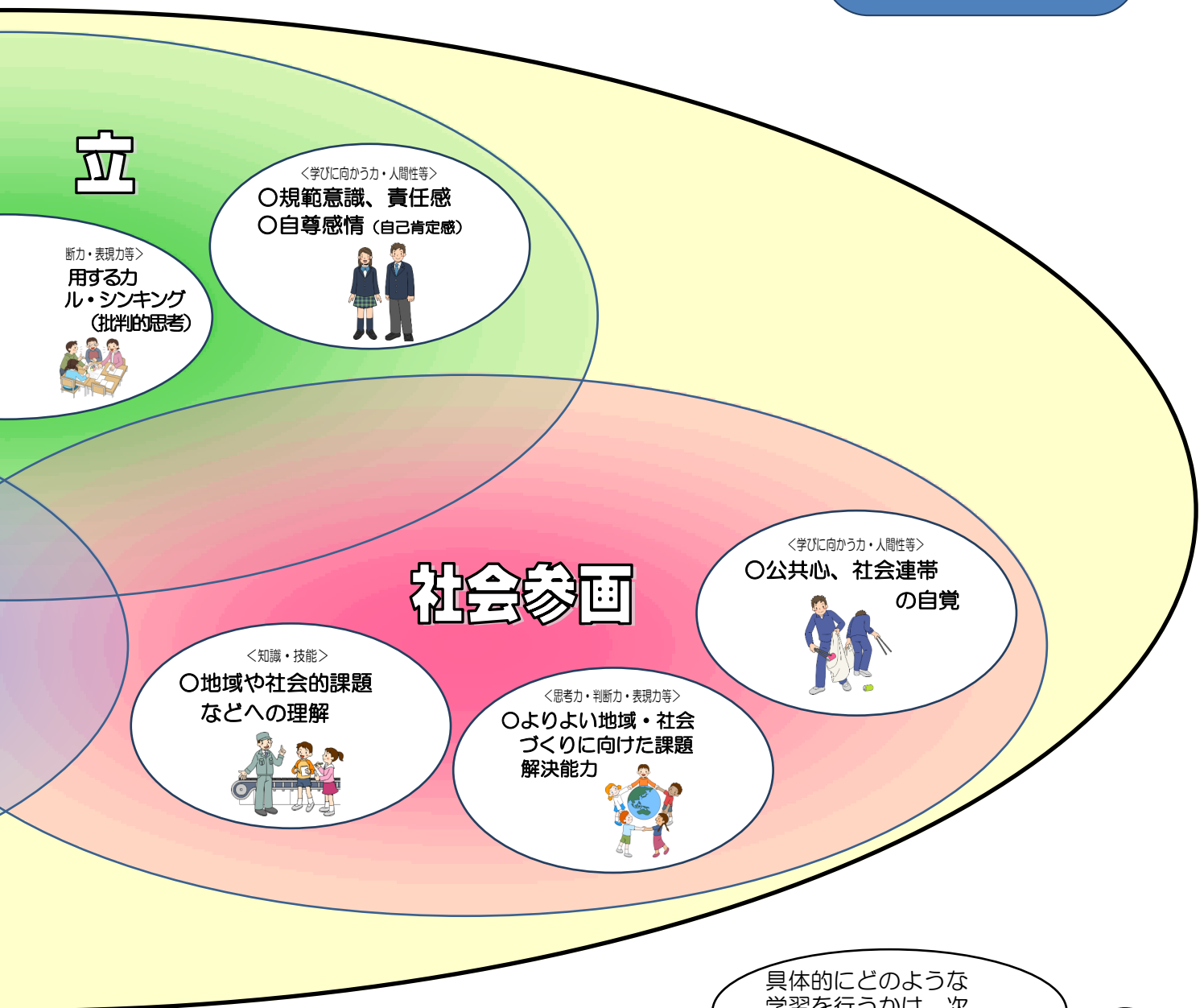


自他共に幸福な

よい地域・社会づくりに 」の育成を目指します

資質・能力

※詳細は13～18ページを
ご覧ください。



具体的にどのような
学習を行うかは、次
ページをご覧ください。



人生の創り手へ

武蔵野市民科は「自己・学 課題を見付け、解決に向

新たな課題の探究へ

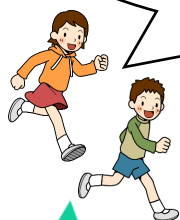
もっと自分たちのまちを調べたり、
自分の生活を見つめ直したりしよう！

①課題設定

②情報収集

④発信・実行

③整理・分析



①課題設定

「自分たちのまちのよさは何か」「働くとはどういうことか」等、自己や地域・社会などから、学習課題を見付けます。

例) 小学校第6学年 境南とことん研究所 (31ページ)



日光移動教室で見つけた「日光のよさ」の視点から「自分たちのまちのよさ」を考えよう！

例) 中学校第3学年 武蔵野市改造計画—ズバリ市長に提言—

武蔵野市のよさや課題について、ブレインストーミングで様々な意見を出し合おう。



(35ページ)

④発信・実行

地域や社会に自分たちがどう関わっていくかを考え、できることから発信・実行していきます。



まちのよさをアピールしたパンフレットを作って駅に置いてもらおう！

これからのまちに必要なものの提言やアイデアを、皆に聞いてもらおう！



校・地域・社会など」から けて取り組む学習です

※詳細は21～22ページを
ご覧ください。

②情報収集

図書資料等を使った調べ学習、保護者や地域住民、事業者、市役所への聞き取りなど、課題について情報を集めます。



まちの施設のことや、
昔の出来事を地域の人に
教えてもらおう！

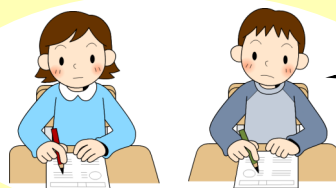
実体験をとおして感じたり、学んだり
することも大切です。

例) 小・中学校 高齢者疑似体験
中学校第2学年 職場体験学習



③整理・分析

ウェビングマップやピラミッドチャート等の「考えるための
技法（思考ツール）」を使って考察するなど、自分の考えを整
理します。



自分たちのまちのよさって
何だろう？そして、これから
のまちに必要なものは…

グループで考えを共有・議論する中で、
思考を深めていくことも大切です。



武蔵野市民科

I 武蔵野市民科の趣旨（詳細は51～56ページ）

複雑で予測困難な時代

- 国際化や情報化、技術革新
- 地域コミュニティの機能低下

これからの学校の求められるもの

- 社会に開かれた教育課程
- カリキュラム・マネジメント

第二期武蔵野市学校教育計画

- 施策19「市民性を高める教育の推進」
「自立・協働・社会参画」の視点からの取組

**第二期武蔵野市
基本**
知性・感
自ら未来
武蔵野

II 目標

武蔵野市民として、自己・学校・地域・社会の中から課題などを
自他共に幸福な人生の創り手となるために必要な「自立」「協働」

「武蔵野」

○Ⅲに示した「資質・能力」は一度
の学習で全て網羅する必要はありません。

○武蔵野市民科を実施する小学校第
5学年から中学校第3学年の間
に、計画的に育成していくことが
大切です。



III 育成を目指す資質・能力（詳細は14～18ページ）

	自立（自己を確立する）	協働（目標達
主に「知識・技能」 の習得に関する項目	・自己理解、自己管理	・他者理解、
主に「思考力・判断 力・表現力等」の育 成に関する項目	・情報を活用する力 ・クリティカル・シンキン グ（批判的思考）	・目標達成に 協力
主に「学びに向かう 力や人間性等」の涵 養に関する項目	・規範意識、責任感 ・自尊感情（自己肯定感）	・よりよい生 築こうとす ・自己有用感

自他共に幸福な

IV 武蔵野市民科の内容

①実施学年等

（詳細は19ページ）

- 小学校第5学年から中学校第3学年まで、各学
年で年1単元以上実施する。
- 特別支援学級は、子どもの実態に応じた指導計
画をできるだけ1単元以上位置付ける。

②教育課程上の位置付けと評価

（詳細は20、26ページ）

- 総合的な学習の時間、各教科、特別の教科 道
徳、特別活動等を教科横断的に組み合わせる。
- 中核となる教科等での評価が基本となる。多く
の場合、総合的な学習の時間が中心となる。

の全体構想

学校教育計画 理念

性を磨き、
を切り拓く
の教育

武蔵野市の特徴・よさ

- 市民意識の高さ
- 地域の教育力の高さ

武蔵野市の子どもの実態

- 地域や社会への関心が高い
- 社会参画意識の更なる醸成が必要

「市民性を高める教育」のこれまでの取組

- 各教科等の年間指導計画の見直しと実践
- 児童会・生徒会など自治的活動の推進

市民科

見付け、解決しようとする取り組みをとおして、
「社会参画」に関する資質・能力を育てる。（詳細は13、14ページ）

成に向けて協力する）

社会参画（進んで社会に関わる）

人間関係形成

- ・地域や社会的課題などへの理解

向けた他者との

- ・よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力

活を協力して
る態度

- ・公共心、社会連帯の自覚

人生の創り手へ

○平成31年度からの2年間を武蔵野市民科の準備・試行期間に設定します。

○各学校では、指導計画等の作成、実践、課題の抽出と検討をお願いします。

○小学校低・中学年は、これまでとおり、市民性を高める教育を行っていきます。



③学習の基本的な考え方

（詳細は21、22ページ）

- 探究的な学習過程（課題設定→情報収集→整理・分析→発信・実行）による指導計画を作成・実施する。
- 指導計画には、Ⅱに示した資質・能力のどの育成を目指すかを明らかにする。

④取り扱う学習テーマの例

（詳細は25、57～61ページ）

- キャリア発達
- 福祉・ボランティア
- 武蔵野の魅力発信
- 環境
- 伝統・文化理解
- 安全・防災
- まちづくりへの参画
- 主権者
- 国際理解
- 長期宿泊体験活動

学校の特徴を生かした武 作成しま

1 学習テーマ

「環境」「主権者」
などテーマ例から1
つ、あるいは複数選
択します。（テーマ
例以外も可）

2 育成を目指す 資質・能力

知識・技能等、観点ごとに目指す資質・能力を選択します。

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

選択した「学習テーマ」や「育成を目指す資質・能力」を基に、「子どもたちにどのような力を育成したいか」を教員が自分の言葉で考え、まとめる部分です。

武蔵野市民科の指導計画を考える上で、最も大切なのが3です。



実際に作成・実践した指導計画の例

武蔵野市民科指導計画

武蔵野市立 境南小学校 第 6 学年
実施時期 2学期末～3学期

第 6 学年

1 単元名	未来に向けて		
学習テーマ	キャリア発達		
2 育成を目指す資質・能力			
○知識・技能の習得	(自立) 自己理解、自己管理 (協働) 他者理解、人間関係形成 (社会参画) 地域や社会的課題などへの理解		
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報を活用する力 (自立) クリティカル・シンキング (批判的思考)		
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(自立) 自尊感情 (自己肯定感) (社会参画) 公共心、社会連帯の自覚		
3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力			
○知識・技能の習得	職業人との対話から様々な職業への理解や職業人の思いにふれる。 自分や友達の個性について、将来の職業に活かす観点から改めて見直し理解する。		
○思考力・判断力・表現力等の育成	ゲストティーチャーとの関わりや図書資料等の多様な情報から、必要なものを選択し、活用する力を育成する。 職業について考える中で、自分の生活についての認識を新たにさせる。		
○学びに向かう力・人間性等の涵養	職業や職業人について自分事として考えることをとおして、将来への希望をもとうとする態度を養う。 社会は、様々な人の思いや努力・協力で成立していることに気づき、自身もその一員であるとの自覚を養う。		
4 中核となる教科等の単元計画	(中核教科等名: 総合的な学習の時間)		
ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
学年全員で職業人の話を聞くことをとおして、職業や職業人に興味をもち、本単元の共通体験とする。	2	女性記者として初めて南極越冬隊に同行するとともに、北極や山岳氷河で地球環境を取材してきた新聞記者をゲストティーチャーとして招き、新聞記者になった動機や仕事の魅力や苦労など、職業人としての話を聞く。	新聞社 社会部専門記者
自分のなりたい職業を調べ、仕事内容を知るとともに、多様な情報から必要なものを選択する力を育成する。	12	将来なりたい職業について考え、その仕事の内容や魅力、その仕事に就くために必要な事柄等を調べ、まとめる。	保護者や地域協力者
ゲストティーチャーの話を聞くことで、職業人の思いに触れ、働くことへの理解を深める。	6	児童の興味・関心に基づいたグループごとに、じっくりとゲストティーチャーの話を聞いたり質問をしたりする(2時間)。 個々の情報を全体で共有するとともに、自分のなりたい職業を改めて考える。	保護者をゲストティーチャーとして招く。
仕事をするとはどういうことか話し合うことをとおして、働くことや生き方についての考えを深める。	2	自分で調べたことやゲストティーチャーとの関わりをとおして、改めて「仕事をする」ということのイメージを交流し、一人一人そのイメージが違っていても、仕事について真剣に考え自分の生き方につなげることを確認する。	
自分の未来予想図を作ること、自分の将来像を考え、希望をもとうとする態度を養う。	5	学習のまとめとして、自分を客観的に見たときの長所や特徴、将来なりたい職業やそのための努力、どんな人になりたいのか等々、小学校卒業後の自分の姿を思い浮かべながら「未来予想図」としてまとめ、交流する。	
5 関連する教科等の学習活動			
関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動	
特別の教科道徳 【A一個性の伸長】	2	将来の職業を考えることを視点として、互いによさや特徴、向いていると思う職業等について考え、交流する。	

なる教科等の単元計画 5 関連する教科等の学習活動
 教科等の単元計画は、探究的な学習過程を意識して作成

合計時数 29 時間

4 中核となる教科等の単元計画 5 関連する教科等の学習活動

中核となる教科等の単元計画は、探究的な学習過程を意識して作成します。その学習を深化・充実させるために他教科等とどう関連させるかを示すのが5です。

蔵野市民科の指導計画を しよう

6 指導上の工夫

学習過程の各段階でどのような工夫を行うか、地域や保護者、関係機関との連携などを示します。

7、8は、実践後の振り返りになります。

まずは、6までを各学校の特色を生かして作成してみましょう。



6 指導上の工夫

保護者にゲストティーチャーのお願いする際は、保護者会等で趣旨を説明して依頼をする。保護者だけで不足の場合は、地域コーディネーターや商店会等を通して依頼する。

「仕事をするとはどういうことか」を考える際には、各自付箋に自分の考えを記入し、KJ法の手法で班ごとに整理する。

7 育成を目指した資質・能力の観点からの児童・生徒の変容

	具体的に「何ができるようになったのか」
○知識・技能の習得	様々な職業について、実際に働いている人との関わりをとおして、仕事の苦労ややりがい、たくさんの人が協力して社会が成り立っていることなどを知ることができた。
○思考力・判断力・表現力等の育成	自分自身や友人について見直し、良さや意外性などに気付くことができた。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	ゲストティーチャーの話をじっくり聞くなどの活動を通して、漠然とした憧れから一歩進めて、具体的に自分のなりたい職業について考え、調べることができた。
児童・生徒の感想等	やりがいと責任、楽しさと苦労など、相反するかに思えた「職業」という概念が、混在して存在し、人としての成長につながると感じることができた。 「楽しみになった」「責任が重いな」など、職業を自分事として捉えることができた。 （ゲストティーチャーの話を聞いて）多くの苦労や失敗を乗り越えることで喜びや問題解決の能力を身に付けるということが分かり、大変そうに思うことも失敗を恐れず取り組んでいこうと思いました。 話を聞いて、メガネを見たりすると、「このレンズにも、光学薄膜がついてるんだよね」と見方が少し変わりました。 日本の常識が世界の常識であるとは限らないと知り、今後、外国に行く際には、その国の当たり前と日本の当たり前を比べてみるのもおもしろそうだなと思いました。 （互いのよさの交流）みんなが私の良さとしてあげたものは、自分では思ってもいなかったこともあり、「ああ、そうなのかなあ」と思いました。

8 課題とその改善策

～課題～ ○児童・生徒に市民性を育んでいく上での課題 ●蔵野市民科を実施する上での課題	～改善策～ ○市民性育成上の課題に対する改善策 ●蔵野市民科実施上の課題に対する改善策
○探究への意欲を高めるには、児童のもっている知識や思いを揺さぶるゲストティーチャーが効果的であるが、依頼する内容、時間、環境の設定が重要であり、単に知識の伝達ではなく、人柄や思いが伝わるような工夫が必要である。 ●総合的な学習の時間と、特別の教科 道徳や特別活動等を組み合わせ、蔵野市民科の単元を作る際、蔵野市民科のねらいと各教科・領域固有のねらいを両立させることが必要である。	○ゲストティーチャーを依頼する場合は、依頼内容（専門性、児童にとって身近な存在、共に考える立場等々）を明確にし、事前に説明する。（本単元では、多様な職業、児童にとって身近な保護者が職について語る意外性をねらった。また、45分間を一人のゲストティーチャーとじっくりかわる環境設定が効果的であった。） ●蔵野市民科及び各教科・領域の目標や内容を確認した上で単元に組み込み、評価に関してもそれぞれの観点から行って記録する。その繰り返しにより、蔵野市民科の単元づくりが円滑に進むようになる。

※作成の詳細は23、24ページを、実践例や計画案は29～49ページをご覧ください。

